

事例検討教材 I

【団地で一人暮らしの 80 歳男性の支援】

(公開されている後見事例を参考にし、一部内容を変更しております。)

対象者：A さん（80 歳男性）の現状

住居：5 階建ての市営団地の 1 階で一人暮らし。部屋はゴミ屋敷の状態

親族関係：妻は 5 年前に亡くなり、遠方に息子はいるが交流はない。

A さんは妻と息子に暴力をふるっていたことから、A さんと息子は交流がない状態。

経済状況：年金（月額 12 万円）、銀行普通口座 120 万円・定期預金 1000 万円

<支援の経緯 I>

団地の近隣住民より、A さん宅がゴミ屋敷同然で火の不始末が心配と地域包括支援センターへ相談が入った。包括支援センターの B さんが A さん宅を訪問すると、A さんの部屋は、新聞紙が山積みされ、家具らしきものも見当たらず、テレビだけが異様に目立っていた。A さんにセルフネグレクトが疑われたが、近くのコンビニへ出かけることを唯一の楽しみとしており、コンビニの弁当で生活が続けていたようだ。

B さんは、定期的に A さん宅を訪問し信頼関係を築きながら、部屋の整理を進めた。一方、A さんに認知症の症状が見受けられたので、A さんの同意を得て要介護認定の申請を行った。結果、要介護 2 の認定があり、ケアマネジャー C さんが担当となった。C さんは、A さんの生活改善のため、デイサービスや在宅介護援助を実施した。諸々の支援により A さんはゴミ屋敷から脱出でき、ある程度の生活が送れるようになった。A さんは、施設入所に耳を傾けたが、決断に至らなかった。

<検討課題>

- ⇒B さんはコミュニケーションが取りにくい A さんとどのように信頼関係を築いたか？
- ⇒介護契約を結ぶ能力はあったようだが、金銭管理についてはどう判断すべきか？
- ⇒在宅介護以外に、どのような支援の活用が考えられるか？
- ⇒支援のネットワークはどのように構築されたか？また、息子の支援の試みはされたか？
- ⇒成年後見制度の利用は検討されたか？任意後見制度利用の可能性については？

<支援の経緯 II>

そんな中、A さんが散歩中に転倒し、右大腿骨骨折。救急搬送により総合病院に入院することになった。入院の際、唯一の親族である息子は支援を拒否した。

A さんの転倒の原因は脳梗塞と診断される。当初は寝たきり状態であったが、3 か月間の入院と、その後の介護老人保健施設のリハビリにより、つかまり立ちができるまでに回復した。ただし、移動は車いすでの生活となった。

入院中に認知症の症状が進行したため、介護認定の変更申請を行い、要介護 3 の認定を受けた。関係支援者は、在宅での生活継続は困難と判断し、施設入所を検討しているが、本人の明確な意思確認はできていない。また、息子が支援を拒否しているため、首長申し立てによる成年後見制度利用についても検討を進めている。

<検討課題>

- ⇒病院などへの支払いや保証人はどのように解決されたのか？
- ⇒施設入所を進めるためには成年後見制度の利用を優先すべきか？
- ⇒息子が支援を拒否する中、成年後見制度の申立ては誰が行うのか？
- ⇒成年後見制度を利用する場合、後見報酬などの費用について本人の資力でまかなえるか？
- ⇒本人が成年後見制度の利用を拒んだ場合、どのように支援するか？
- ⇒本人が自宅での生活を希望している場合、支援体制は可能か？
- ⇒今後の支援ネットワークの構築は？